

富弘美術館鑑賞旅行記



星野富弘
1946 ~ 2024



9月7日、秋雨前線や低気圧に近く大雨による災害が発生する可能性があるとの報道で心配は尽きませんでした。当日は出発から帰宅まで大降りになることもなく、現地では青空も垣間見える天候でした。
円形を基調とした美術館は、星野さんのふるさと草木湖ほとりの美しい自然の中にありました。

8月29日グランドオープンしたばかりで、開館35周年記念展「愛・深き淵より」が開かれていました。館内は撮影禁止で写真は撮れませんでした。見る人が作品の世界に入り込んだような体験ができる展示、イマーシブアートで富弘作品を映像・音・光で円形の空間全体を存分に味わいました。

中学校の体育教師となった矢先、部活の模範演技の最中に落下し頸髄損傷という首から下が動かない障害を負い、9年におよぶ入院生活を過ごす中、お礼の気持ちを伝えたいという思いから筆をくわえ、点～線～丸～文字へと歯ぐきから血がにじむほど大きな試練を乗り越えて、文字～絵を描き「詩画」と呼ばれる作品が生まれたのでした。そのすべてが心洗われるものでした。



昼食は、みやじま庵にて名物の「ひもかわ御膳」
をいただき順調に帰宅の途につきました。

月曜書道教室代表 白石美鶴